



農地と農業用施設の現地調査について紹介します

(1/2)

今回紹介する団体: 水土里ネット岡山

県内 2市町、1改良区、農業共済組合3事務組合

取組概要

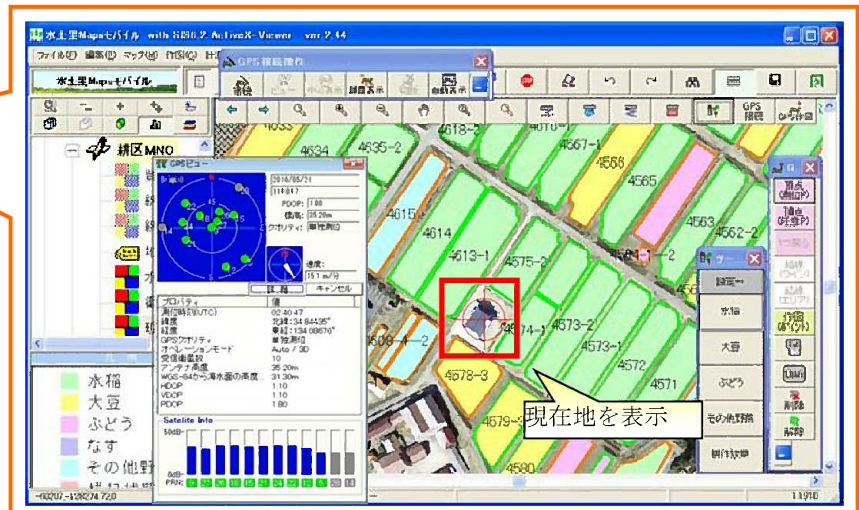
内容:

整備されたGISデータをセットしたモバイルPCを活用して、効率的な現地調査の実施に活用しています。



【作付け調査の例】

モバイルオプションで現在地を確認できるので、目的地に素早く到着。
現地で確認調査を行い、水土里Mapsモバイルへ結果を入力。



経緯:

市町村の業務として①用水系統調査②農道の点検③災害被災箇所の調査④耕作放棄地調査⑤農地の作付調査⑥パイプライン等の水利施設の管理・補修箇所・位置の特定など様々な業務があります。

町村合併により広域化したエリアでは、これらの業務を効率的に実施するのは難しい状況でした。

こうした背景から農地地図情報システムに、GPSの機能を組み込み、現地へ持って行けるGISシステムとして、水土里Mapsの「モバイルオプション」を開発しました。

現在このシステムを活用し、市町では、耕作放棄地の現地確認、戸別所得補償の作付調査業務、土地改良区ではパイプラインの施設管理、受益地情報整理、農業共済組合では、作付状況の現地確認に活用しています。

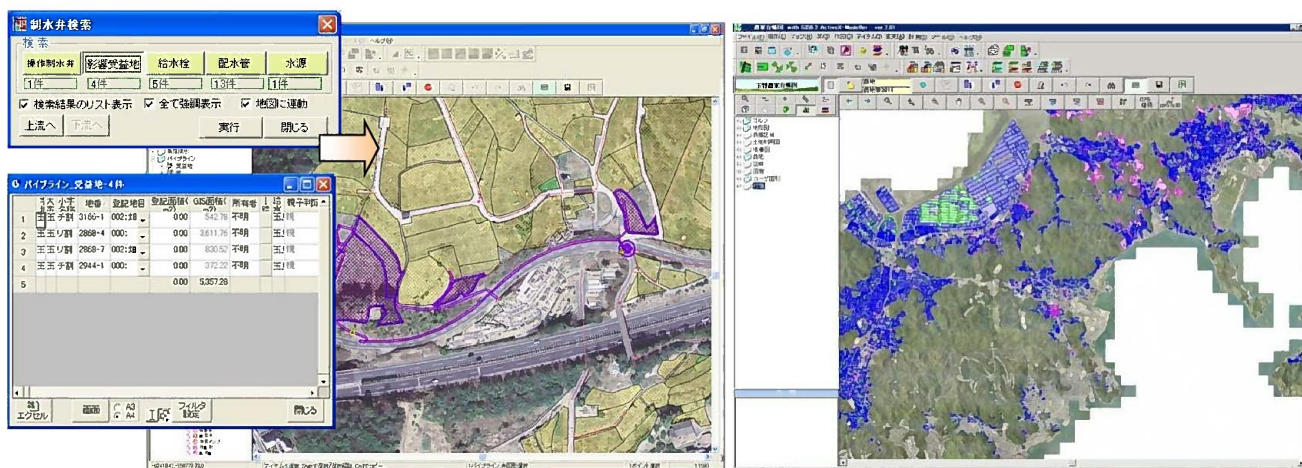
このシステムにより従前に比べ、これらの業務を効率的に実施できるようになりました。

期待される効果

市町村や土地改良区において、管理エリアの広範化や管理者の高齢化により、以下のような情報の共有とその継承が困難となりつつあります。

- ・農地の管理者情報
- ・用排水系統毎の水利施設の維持管理情報
- ・土地改良施設の位置情報と補修更新履歴

そこで、これらを農地地図情報のうえで整備することにより、農業団体の細やかな運営と土地改良施設の定期管理が実現可能です。これにより、地域の農業用水利施設等の安全・安心が保たれ、農業生産の継続的な維持と発展が図られることが期待できます。



今後の活用予定

本会では、オルソ画像データ作成途中に生成される地表面標高データの利用について研究しています。このデータを利用することで、ため池の氾濫解析・東南海地震における津波被害といったハザードマップ作成に挑戦していき、地域の安全、安心のためにこれらの情報を活用していきたいと考えています。

■お問い合わせ先

岡山県土地改良事業団体連合会(総務部水土里情報課) 086-225-0921(代表)

農林水産省農村振興局整備部設計課計画調整室(横田、溝添) 03-6744-2212(直通)